



我が国の今後の対中政策（今回の事態を踏まえて）

89. 6. 12

中国課

1. 今次事態への基本認識

- (1) わが国とは政治体制を異にし、価値観においても異なる隣国中国の国内問題。
- (2) 戒厳軍が市民・学生に銃を向け、多くの人命が失われるという痛ましい事態に至ったことは遺憾。人道の見地から容認できない。
- (3) 鄧の下に党・軍の強行派が指導権を掌握し、当面このラインで収束の方向へ。
(但し、中国内外政は難問が山積。)

2. 当面の対処方針

- (1) 上記基本認識に基づき、日中関係への影響、わが方の対応を検討。
- (2) 実態面では、今次事態のインパクトがなるべく小さくなるよう対処。(考慮すべき要素別添「参考」)

3. 具体的検討を要する問題

(1) 二国間政治関係

- (イ) 政府間接触のあり方→閣僚会議、ハイレベル交流等
- (ロ) 基本的枠組→日中共同声明の見直し等。
- (ハ) 歴史認識→靖国参拝、教科書等(中国が今般非人道的行為をしたからといって、我が国が過去の行為を曖昧にすべきでない。)
- (ニ) 台湾との関係→台湾側の行動が予測し得ないところ、当面静観。

(2) 日中二国間経済関係

- (イ) 政府ベース経済協力→停止も続行もインパクト大。関係省庁とも慎重に協議。
- (ロ) 貿易・投資→実務関係は当面先細り。我が国としての政策意図は特に表明しない。
- (3) 二国間社会問題→我が国に滞在中の中国人には当面査証延長の特典。(我が国への亡命事件の発生を未然に防ぐためにも、早期に声明等を出す要あり。)

(4) 国際的側面

- (イ) サミット対策→声明・議長総括等(サミット参加国によるGANG UP との印象は避ける。何等かの認識を表明する場合は、慎重に対処。)
- (ロ) 対米関係→方励之の件もあり、短期的に中米関係は冷え込む恐れ。米側と協議の要
- (ハ) ココム→当面对中規制緩和は困難に。

(参考) 今後の政策決定に当たっての考慮すべき諸点

(1) 我が国にとって望ましい中国像→あくまで、安定し、穏健な政策により近代化を進める中国。

(2) 我が国の対中政策が持つ重みとその跳ね返り→わが国の対中政策は、(イ)他の諸国の対中政策に大きな影響を及ぼすのみならず、(ロ)中国の内外政策そのものにも大きな影響を与えうる。従って、我が国の政策決定においては、その影響を予め慎重に評価する必要あり。

(3) 中国の対外関係への影響→

(イ) 中国内政の不满が反日に向かうことは避ける。

(ロ) 今後米中関係悪化の兆し。西側全体との関係

(ハ) 当面、中国が外交上活発に動くことは困難(「カ」問題、朝鮮半島情勢への影響)。

(4) 我が国国民感情と国際世論→今回の事態は、何人たりとも中国現政権の側に立つことを困難にした。

(5) 中国人民の将来→中国青年・市民の我が国を含めた民主主義陣営への期待に対する考慮。